

陳情第17号

沖縄戦戦没者の遺骨を含む土砂を埋め立てに使用しないことを求める意見書の国への提出を求める陳情

陳情の趣旨

2020年（令和2年）4月21日、沖縄防衛局は、普天間飛行場代替施設の辺野古沿岸部埋め立てに同県内採取の土砂の7割を沖縄本島南部から採取する計画（公有水面埋立変更承認申請書）を県に提出しました。

私たち「XXXXXXXXXXXX」は、この計画は先の大戦で戦火により多くの市民が無辜の死に追いやられた本市（宝塚市）、多くの沖縄戦戦没者を出した本県（兵庫県）にとって決して看過できぬ人道上の課題であると考え、

1 沖縄戦の戦没者の遺骨が混入している沖縄島南部の土砂はあらゆる埋め立てに使わないこと。

2 日本で唯一住民を巻き込んだ地上戦であった沖縄の事情に鑑み、「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」に基づき、日本政府が主体となって戦没者の遺骨収集を実施すること。

を、国に求めるため、地方自治法に基づき、宝塚市議会がその意見を政府に提出することを求めて署名を集めました。

本年5月中旬に署名を集め始めて約2か月半、3,700筆の署名が集まりました。うち半数近くが宝塚市内在住者で、市内在勤の方を含めるとその数は2,000筆を大きく上回るものとなりました。と同時に、周辺諸都市や他県（本県を含む20都府県以上）の方の署名の協力もありました。同様の市民レベルの取り組みが全国であまりなされていない中で、本署名はこの課題に対する市民の意思を表す機会となり、また同時に宝塚市議会への大きな期待と関心をあらわしたのもであると、私たちは考えています。

この間、市内で8回の街頭署名も行いました。年齢を問わず、多くの方が足を止めて下さいました。「埋め立てが進んでいることは知っていたが、そんな計画があることは知らなかった」という方や、「戦火が絶えない今、是非協力したい」と、署名用紙を持って帰

る方もおられました。職場やサークル、団体、お店やご近所で署名を集めて下さった方も少なくありません。教会や寺院、宗教関係者の方々も多く協力してくださいました。教会で礼拝のあと呼びかけてその場で多くの署名を集めて下さる例もあり、あるお寺では檀家の方々や近在のお寺に広く呼びかけて下さいました。

沖縄出身者は言うに及ばず、「異郷の地」「第二の故郷」で暮らす在日外国人の方々の協力も大きいものでした。彼らの故郷を想う心情とも重ねて受け止めねば、とも感じました。

この数ヶ月はまた、ウクライナで戦火が止まなかった時期でもありました。それだけに「戦火の下での無辜の死」をないがしろにすることに対するいたたまれない思いも重なったものと思われまます。

8月15日の全国戦没者追悼式において、岸田首相も式辞の中で「異郷での死、沖縄における地上戦の渦に巻き込まれた御霊」に言及し、「いまだ帰還を果たされていない多くのご遺骨のことも決して忘れません。1日も早くふるさとお迎えできるよう、国の責務として全力を尽くしてまいります」と述べています。

なお、ある方が署名と一緒に送って来てくださった短歌を紹介いたします。

またしても 捨て石なりや我骸（わがむくろ） 沖縄戦の御霊（みたま）嘆きぬ

こうした広範な市民の声を、どうか政治的立場を超えて議員の皆様が受け止め、意見書提出に実らせてくださることを、切にお願い申し上げます。

陳情の項目

- 1 以下（次頁、明朝体の文）の意見書（案）の趣旨文を尊重し、2項目の意見を（意見書として）国に提出すること。

沖縄戦戦没者の遺骨を含む土砂を埋め立てに使用しないことを求める意見書

2020年（令和2年）4月21日、沖縄防衛局は、普天間飛行場代替施設の辺野古沿岸部埋め立てに同県内採取の土砂の7割を沖縄本島南部から採取する計画（公有水面埋立変更承認申請書）を県に提出しました。

沖縄県では先の大戦で唯一の地上戦が行われ、20万余の尊い命が失われました。とりわけ南部の採掘予定地は逃げ惑う住民の多くが犠牲になった「1m四方を掘れば必ず砲弾の破片が見つかる」（遺骨収集ボランティアの■■■■氏）激戦地であり、惨禍を二度と繰り返さないために定められた日本で唯一の「戦跡国定公園」の一部です。日米両軍の兵士は言うに及ばず、住民、朝鮮半島出身の人々などの少なからぬ遺骨が今も地中に眠っています。『平和の礎』には兵庫県出身の3,202人（2021年現在）の戦没者名が記されており、これは全国で4番目に多い沖縄戦戦没者数です。

長くボランティアを中心として遺骨収集が進められてきましたが、2016年、国会において全会一致で採択された「遺骨収集推進に関する法律」に基づき、今は厚労省が遺骨を遺族の元に帰す事業に取り組んでいるところです。が、未だに（沖縄県によると）3,000柱近くが遺族のもとに帰っていない状態です。

世界で戦火の下に無辜の死を強いられる人が増えている今、命の尊厳と死者への礼節とを踏みにじるこうした計画の実施はあってはならないことであり、平和な未来への道をみずから閉ざすことに他なりません。

そこで、政府におかれましては、下記の事項が実現されることを強く求めます。

- 1 沖縄戦の戦没者の遺骨が混入している沖縄島南部の土砂はあらゆる埋め立てに使わないこと。
- 2 日本で唯一住民を巻き込んだ地上戦であった沖縄の事情に鑑み、「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」に基づき、日本政府が主体となって戦没者の遺骨収集を実施すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

2022年（令和4年）9月

宝塚市議会

衆議院議長

細田博之 様

参議院議長	尾辻秀久 様
内閣総理大臣	岸田文雄 様
外務大臣	林芳正 様
厚生労働大臣	加藤勝信 様
国土交通大臣	齐藤鉄夫 様
環境大臣	西村明宏 様
防衛大臣	浜田靖一 様
内閣府特命担当大臣	岡田直樹 様

令和4年（2022年）8月30日
宝塚市議会議長 三宅浩二 様

陳情者

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]